

# 新規参入者の定着支援 ～いちご産地の育成～

(課題番号 7)

◆活動年次：令和3年度

◆対象：JAひだか東 就農2～3年目の夏秋どりいちご栽培者 9戸

## 1 課題の背景

新規就農2～3年目は販売実績が少なく、経営が不安定である。新規参入者の定着を目的に、就農計画の収量目標を達成し、経営の安定化を図る。

## 2 活動の経過

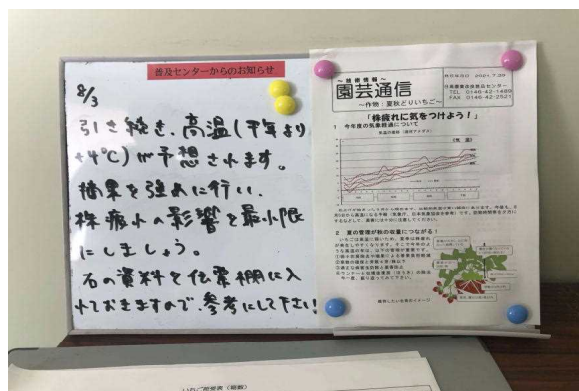
- ①個別巡回を定期的に行い、見本を示しながら基本栽培技術を指導した。
- ②共選場にホワイトボードを掲示し、タイムリーな情報提供を行った。

活動の経過

時期	方法	回数	主な内容
2～11月	個別巡回	延べ40回	基本栽培技術、病虫害対策、生育調査
7～10月	ホワイトボードの記載	延べ12回	病虫害防除、基本栽培技術、温度・肥培管理
7月	現地研修会	1回	気象状況、生育状況、病虫害対策
4～10月	着色不良果再現試験	延べ12回	道総研との現地協議、現地調査、調査結果の分析、生産部会における報告



病虫害の見方と防除指導



いちご共選場に掲示したタイムリー情報



現地研修会



着色不良果の原因究明と対策協議

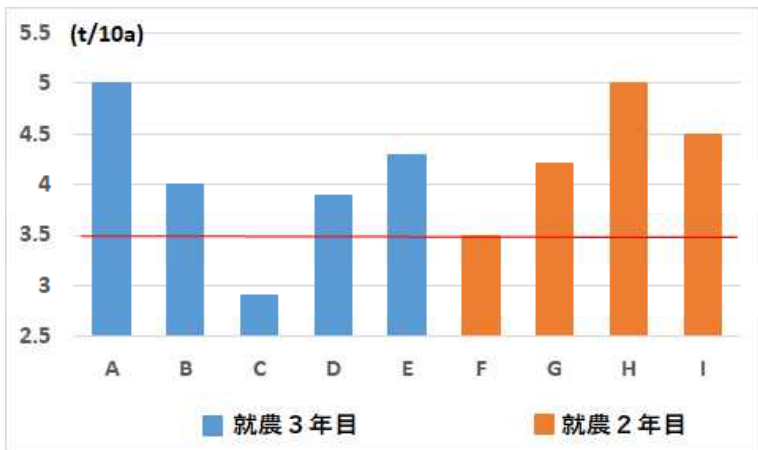
### 3 活動の成果

#### (1) 基本栽培技術の習得・向上

① 生育状況を数字で示すことで、目標とする生育に到達しているかの判断材料となった。

② 病害虫の適期防除やローテーション防除に対する意識向上が図られた。

#### (2) 目標収量の確保



各農業者（新規就農3年目以内）の収量

新規就農2～3年目の8戸が目標の3.5t/10aを達成した。

農業者としての自信につながった。

#### (3) 規格内率の向上



各農業者の規格内率

着色不良果や灰色かび病の発生が減少し、規格内率が向上した。

病害虫防除や肥培管理の重要性が再認識された。

実際に営農し始めて、不安なことばかりだったが、助言により客観的に判断することができ、安心した。

病害虫は早期発見、初期防除が重要だと改めて感じた。

基本技術を適期に実践できれば、収量と品質は向上することが実感できた。



### 4 今後の対応

引き続き、新規参入者（就農3年目以内）の収量が3.5 t/10a（地域の目標収量）以上を維持できるように活動する。